



ふれあい通信

第203回史跡ウォーク

御池通・二条通沿いの史跡を歩く

チーム華 富永正治

二条通、御池通沿いには平安時代には有力貴族の邸宅が建ち並び、祇園祭の発祥の地であり、空海の雨乞いでも有名で御池通の名のようになったといわれる広大な神泉苑がありました。御池通を東に歩くと室町時代に足利尊氏が政務を執りかつ没した「足利尊氏邸・等持寺」の石碑があり、「室町幕府発祥の地」と言われる由縁です。安土桃山時代には信長、秀吉、家康の時代にはそれぞれの二条城が創建されました。明治に入ると二条城には一時期京都府庁が置かれ、皇室の別邸「二条離宮」ともなりました。明治2年には日本初の小学校である柳池小学校（現柳池中学校）が創立された地でもあります。このように歴史がぎっしり詰まった史跡を巡ります。

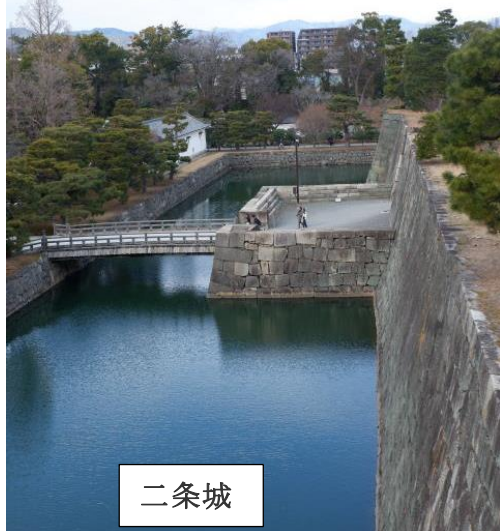
◆日時.. 4月20日(日) 受付9時~9時30分

※ チーム華の会員は8時に、その他の会員は8時30分に集合願います。

◆集合..三条大宮公園（三条通商店街内。地下鉄東西線下車大宮通を南に400m、または堀川三条バス停下車三条商店街を西へ300m（9号、12号系統など）

◆コース

三条大宮公園（集合・受付）↓①三条御供社（またたび社）↓②二条陣屋 ↓③神泉苑（歳徳神、善女竜王社）↓④寛永の二条城改修・増築跡↓⑤二条城南門↓⑥二条城の時計回りに3度の傾きの説明↓⑦二条城東大手門↓⑧橋本左内寓居跡↓⑨堀川の二条城築城時の石積みに残る藩の刻印、「是より北紀州」の銘」↓⑩秀吉の妙顕寺城跡（秀吉の二条城）↓⑪御金神社↓⑫東三条院址↓⑬建物疎開による御池通の拡幅の説明↓⑭南北の通り名の説明↓⑮銀座跡↓⑯二条御新造跡（信長の二条城）↓⑰足利尊氏邸跡・等持寺跡↓⑱日本最初小学校柳池校（現柳池中学校）↓⑲間部詮勝寓居跡↓⑳妙満寺跡↓㉑京都市役所（ゴール）



二条城

京都史跡ガイド
ボランティア協会
会長 山田久男
編集 澤田 卓



明治2年5月21日、日本初の公立小学校・上京二十七番組小学校（のちの柳池小学校）



信長、秀吉、家康の二条城



しだれ梅の仕立て技術

チーム都 今井 満

各地の庭園は、春になれば梅の見ごろを目当てに多くの客が訪れる。

先日外部ガイドで北野天満宮を訪れると、5分咲きにかかわらず梅苑の入場料は1200円なので、柵越しで鑑賞させてもらった。

それと、どこでも人気があるのが、しだれ梅で「鈴鹿の森庭園」の担当者が、作り方を教えてくれた。無駄な枝は、落とす「よく桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」ということわざがあるが、剪定作業の丁寧さが大事だと云う。それより驚いたのが、日の光をすべての枝に等しく当て、どこから見ても同じ形に整える作業をしていると云う。

それをどのようにするかと云うと、根こそぎ梅の木を定期的に回して、おなじような枝ぶりにそろえているそうで、お客様からの「美しい」の声が励みだと云う。

いろんな世界で、人知れず苦勞し、努力を重ねている人がいる事を、改めて知った。



鈴鹿の森 庭園

しだれ梅

『驚き、桃の木、明治の記』

④勝海舟（前編） チーム葵 今川博明

勝海舟、山岡鉄舟、高橋泥舟の3人を「幕末の三舟」と言いますが、今回はその中の一人勝海舟を紹介します。

生まれは江戸で、ちゃきちゃきの江戸っ子。幼名は麟太郎、10代のころから剣術を学び、直心影流（じきしんかげりゅう）の免許皆伝を得ています。

江戸に遊学に出ていた龍馬も千葉道場で北辰一刀流の免許皆伝を得ており、攘夷の思想をもつ龍馬は、幕府の海軍奉行の海舟を暗殺するために屋敷を訪ねています。

しかし、海舟から幕府や藩同士が争っている場合じゃなく、日本を一つにしたいといけないと諭されます。そして、外国と立場を対等にするための海軍を作るといふ話を聞いて、龍馬自身も海舟の神戸海軍操練所に入るのでした。

後に海舟は、幕府のスクリーン式蒸気軍艦「咸臨丸」で渡米しますし、龍馬は亀山社中、のちに海援隊を組織します。舟の渡米では、この「咸臨丸」に福沢諭吉も同船していました。

海舟は軍艦操練所の教授方で船長であり、諭吉は軍艦奉行の木村の従者（家来）でした。この身分の違いも関係したのか？ 後に、この二人は仲が悪くなりました。

理由は、海舟が慶應義塾の支援協力を断ったからです。なぜなら、諭吉が政府から払い下げられた1万4千坪に及ぶ広大な三田の良地を、海舟が保有していることを知っていたため、土地を売却しても足りないのなら相談に乗ると答えたのです。これに対し、諭吉は三田の土地を非常に気に入っていたため売却しなかったのです。

京都の地味な話 チーム彩 奥西不二

『浄土真宗最初門』と「紫雲石」の不思議

金戒光明寺の三門の扁額「浄土真宗最初門」は後小松天皇の宸筆といわれています。これを見て「おや？」と思う人が何人いるのでしょうか。金戒光明寺は浄土宗で浄土真宗ではありません。

寺伝によると承安5年（1175）春、浄土宗の開宗を決めた法然が比叡山の黒谷を下った。岡を歩くと、大きな石があり、法然はそこに腰掛けた。すると、その石から紫の雲が立ち上り、大空を覆い、西の空には、金色の光が放たれた。そこで法然はうたたねをすると夢の中で紫雲がたなびき、下半身がまるで仏のように金色に輝く善導大師が現れ、対面を果たした（二祖対面）という。これにより、法然はますます浄土宗開宗の意思を強固にしたと言われています。それで最初に法を説いた所と言うわけです。「くろだに」さんは比叡山の黒谷からです。



第五世恵顚の時に堂を整え、法然の見た縁起にちなみ紫雲山光明寺と号しました。第八世運空は、後光厳天皇に戒を授けて、金戒の二字を賜り、金戒光明寺と呼ぶようになった。法然が最初に浄土宗の布教を行った地であることに因み、後小松天皇から「浄土真宗最初門」の勅額を賜ったとされています。現在、三門は江戸時代のもので、岡の上、紫の雲

が立ち上がった石が「紫雲石」で会津藩士の墓地に抜ける途中にあります。

さて先月のふれあい通信で法然と善導大師が夢のなかで出会ったのは知恩院の鐘楼から登ったところにある「法垂の窟屋」と記していました。知恩院と金戒光明寺、いったいどっちがどうやねんと言いたいところ。また紫の雲も見ることがない不思議な話です。

仁丹町名表示からわかる歴史

賛助会員 清水満章

京都に興味をお持ちの方であれば皆さんご存じの「仁丹」町名表示です。

昨年には、「京都を歩けば「仁丹」にあたる」という本も出版されていますので、お読みになられた方も居られると思います。

そのような中で私が見つけた一例で、京都市の歴史を知ることができ興味ある実例を紹介させていただきます。

写真を見ていただくと「下京区 西ノ京伯楽町」と記されています。

いつも街中で見かける町名表示と同じようなものに見られると思います。

設置場所をお知りになると、「？」と思われる方が居られるかと思ひます。

設置場所は、JR円町駅の西北西3百メートルの下立売通に面した家屋です。

丸太町通より、北側です。烏丸通のあたりでは丸太町通の北側は、概ね上京区となっています。現在この地域は、中京区です。

下京区が丸太町通の北側にある？あった？歴史は語ってくれます。そうなんです。

丸太町通の北側にまで下京区があったので経緯は、次のようになります。

1918年・大正7年…京都府葛野郡朱雀野村が京都市下京区に編入（当時京都市は上京区と下京区の2区だけでした）

1929年・昭和4年…上京区の丸太町通以南と下京区四条通以北が中京区として独立（同時に、左京区と東山区も設置されました）

ということ、丸太町通以北とはなりますが、このエリアは、下京区であった四条通以北として、中京区になったということです。

他にも、この町名表示板は遅くとも昭和4年までに設置されていたことがわかりますから、設置されてから、百年前後経過しているということになります。

一枚の「仁丹」町名表示から、京都市の町村合併、分区的経過などいろいろと知ることができる実例でした。

皆様も身近にある物を調べるといろいろなことを知ることができると思います。



しまなみ海道

チーム葵 澤田 卓

京都に暮らすと、海が恋しくなることがある。晩秋の候、自転車や愛車を積んで旅に出た。まず山陰の鳥取から島根の海岸や宍道湖

を目指しワクワクして出かけたものの、雨模様でとてもサイクリングのできる状況ではないようだ。

行先を瀬戸内に変更して、山陽道から松江道に入りパーキングエリアで車中泊しながら尾道を目指す。中国山地を超えると雨雲は霧消し、しまなみ海道に入る。こちらにはいくつかの道の駅があり、私に「いらつしやい」と誘いかけるようだ。

まず伯方島に降りて道の駅に駐車し、四国を目指して出発。この日は祭日連休でもあり、本格的なサイクリストの他、私のような観光サイクリストが多く、家族連れ、インバウンドも混在して人気のコースだと実感する。

上空にそびえる橋上までは、なだらかなサイクル用道路が整備され、高齢サイクリストも何とか橋上に立つことができ、橋上の全方向を見渡せる景観こそがこのコースの魅力だろう。

四国に到着して、今治城、瀬戸内の島々や船舶、さざ波を眺めてのサイクリングに浮世から放たれたわが身を発見する。こんなことで感激するとは、なんて小さい人間だろうと一人微笑む私がいる。

再び橋を渡り、大島から伯方島へ帰り、大三島へ移動する。こちらには塩の温泉があり、しかも高齢者は割安になっていた。（笑）

こうして、各島々へ移動し、観光地図を頼りにサイクリングを楽しみました。近世までは、橋もなく潮の変化もよみづらく、海賊の跋扈する地域だったことだろうが、やはり経

済を拡大しようとすれば流通が大切だと改めて思い知りました。

四国に三本もの橋があるのか。あれは各地代表の議員さんが我田引水で地元のために誘致したものだとの声も聞いたけど、今更ながら有ってよかったと実感しました。



しまなみ海道をサイクリング

第202回史跡ガイドウォークを終えて

『久世・久我の鎮守さまを巡る』

チーム葵 金子喜三好

生憎の雨模様の中、ガイドを務めて下さいました会員の皆様に心より御礼申し上げます。また、準備万端の上に出発地点に集合してい

ただきながら、説明業務に従事いただくことができませんでした第6班以降の担当の皆様には、衷心よりお詫び申し上げます。

さらに、雨の影響があったとはいえ、参加者35名という史上最低記録を作ってしまったことを、本当に申し訳なく思います。

今回は、京都市南西部、桂川西岸の久世から久我周辺の「鎮守さまを巡る」が主たるテーマでした。この地区の鎮守さまには、次のような特徴があります。

① 桂川と鴨川の合流地点に隣接するため、水運に恵まれるが、水害も多い。

② 長い参道と鎮守の森が現存している。

③ 鳥居等に、注連縄が一年中張られている。

④ 割拝殿がある社が多い。

⑤ 本殿が、覆屋に覆われ、保存状態が良い。

これらを、参加者の皆様が実感して下さい。この地域には、全部で9カ所の鎮守の森があり、それらを「全部制覇する」が、当初の目的でした。個人の下見に加えて、3回のチーム下見を実施しました。実際に歩いての検討から、距離が長く時間がかかるので、二回（今回と、次回）に分ける案も浮上した。しかしながら、適切な出発地点や解散場所を見つけて、巡る地点を減らし、一回とすることを提案することとした。1回目の全体下見の終了後に、山田会長から、「コースを短縮するように」とのご指導があり、チーム内での再検討を経て、最終案（一部を希望者のみとする）が決定した次第です。振り返りますと、チームの意向が優先し、参加者への配慮が欠如していました。今後は、今回のような事例が起これぬよう努めます。

なお、関心の高い5名が希望者参加コースを巡ったことには、大きな喜びを感じました。

残念ながら今回のコースから漏れた名所を紹介します。機会がございましたら、ぜひ訪れて見て下さい。

○倉掛（くらかけ）神社



○羽束師（はつかし）神社



○福田寺（ふくだんじ）（開山：行基菩薩）

・雨乞いの龍神像（木造）

